

MG1015-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月24日17:15-18:45

## IUGONETメタデータ・データベースシステムの構築

### Development of metadata database for Upper Atmosphere

小山 幸伸<sup>1\*</sup>, 田中 良昌<sup>2</sup>, 河野 貴久<sup>3</sup>, 林 寛生<sup>4</sup>, 堀 智昭<sup>3</sup>, 鍵谷 将人<sup>5</sup>, 吉田 大紀<sup>1</sup>,  
上野 悟<sup>6</sup>, 阿部 修司<sup>7</sup>, 金田 直樹<sup>6</sup>, 三好 由純<sup>3</sup>, 能勢 正仁<sup>1</sup>, 岡田 雅樹<sup>2</sup>

Yukinobu Koyama<sup>1\*</sup>, Yoshimasa Tanaka<sup>2</sup>, Takahisa Kono<sup>3</sup>, Hiroo Hayashi<sup>4</sup>, Tomoaki Hori<sup>3</sup>,  
Masato Kagitani<sup>5</sup>, Daiki Yoshida<sup>1</sup>, Satoru UeNo<sup>6</sup>, Shuji Abe<sup>7</sup>, Naoki Kaneda<sup>6</sup>,  
Yoshizumi Miyoshi<sup>3</sup>, Masahito Nose<sup>1</sup>, Masaki Okada<sup>2</sup>

<sup>1</sup>京大・理・地磁気, <sup>2</sup>極地研, <sup>3</sup>名大STE研, <sup>4</sup>京大・生存研, <sup>5</sup>東北大・理・惑星プラズマ大気, <sup>6</sup>京大・理・天文台,  
<sup>7</sup>九大・宙空センター

<sup>1</sup>WDC for Geomag., Kyoto Univ., <sup>2</sup>NIPR, <sup>3</sup>STEL, Nagoya Univ., <sup>4</sup>RISH, Kyoto Univ., <sup>5</sup>PPARC, Tohoku Univ.,  
<sup>6</sup>Kwasan & Hida Obs., Kyoto Univ., <sup>7</sup>SERC, Kyushu Univ.

IUGONETは、日本国内5機関7組織が連携し、レーダー、磁力計、光学観測装置、太陽望遠鏡等の全球的地上観測ネットワークによって長年にわたって蓄積された超高層大気に関する多種多様なデータのメタデータ・データベースを構築する。超高層大気の長期変動のメカニズムを解明するためには、全球規模の地上観測ネットワークによる様々な観測データ(地磁気、太陽活動、オーロラ等)を組み合わせた総合的な解析が必要になる。しかしながら、これまでは、このような超高層大気の地上観測データは機関毎にデータベース化・公開がなされるものの、そのデータの多くは個別の観測・研究に特化した分野での利用に留まっていた。また、一部の観測データについては、観測者と周辺の限られた研究者のみによる利用に終始し、公開されないまま記録メディアの中に埋もれるケースもあった。IUGONETは、実観測データのロケーション情報や記録メディア情報等のメタデータを抽出してメタデータ・データベースに登録し、観測データの流通を図る。また、各研究機関が所有する各種観測データを有機的に利用した総合解析を促進し、国内外の関連研究者の緊密な研究協力体制のもと、様々な現象が複雑に絡み合う超高層大気の長期変動のメカニズム解明を目指す。

本プレゼンテーションでは、IUGONETのメタデータ・データベースのプロトタイプならびに開発中の解析ソフトウェアの説明を行う。

キーワード:メタデータ,データベース,解析ソフトウェア,超高層大気,地上観測

Keywords: metadata, database, analysis software, upper atmosphere, ground-based observation